

# 公益社団法人 全国学校栄養士協議会会長賞

## 『給食献立表がつなぐ家族の輪』

高知県安芸市立安芸第一小学校 五年一組 男子 須賀 康太

ぼくの家の冷蔵庫にはられている一枚の紙それは給食の献立表です。何気にはられている献立表だけれど、それはぼくたち家族をつないでいるとても大切なものです。

ぼくの一日は、家の冷蔵庫にはっている給食の献立表を見ることがから始まります。不思議と眠気もふっ飛ぶのです。そして、キッチンにいる、母との「今日の献立何やったっけ。」から会話が始まります。実は献立表を見るのは朝だけではありません。冷蔵庫の前に行くとき見えています。ぼくの日課になっています。今年の三月までは、給食の献立表をながめる家族があと二人いました。二才年上の姉と母です。家族三人が給食を食べていたのです。それが四月からは母と二人になってしまいました。母は安芸市内の学校で働いています。だからぼくたちと同じ献立の給食を食べています。夕飯の時には「今日の給食美味しかったね。おかわりした。」

と話が盛り上がります。その時姉は

「給食いいな。お母さんのお弁当も美味しいき好きやけど。」

と必ず言ってきます。母は

「給食のある学校へ行ったらよかったのに。」

と言葉を返すのです。ぼくも内心そう思っています。そんな姉は、給食を食べなくなっても、冷蔵庫の前に行くと献立表を何気なく見ている時があるのをぼくは知っています。その姉の行動を知っている母は、たまに給食だよりにのっているレシピを見て、姉のリクエストに応えていることがあります。姉の好きな献立は切り干し大根のサラダです。そう、ぼくたち家族は安芸市でとれた野菜が使われている給食が大好きなのです。クラスの子が苦手な野菜がたくさん入っている煮物などの献立の時は、じゃんけんなどでおかわりできるので、ぼくはとても幸せな気分になります。

そんな中、家族でただ一人、給食を食べたことのない父はぼくたち三人が給食について話しているのをいつもうらやましそうにしています。だから去年、給食の試食会に参加してもらいました。その時は、家族四人が同じ学校で、同じ給食を食べました。その経験はなかなか味わえないものだと思ってしまうようになりました。

こんなに献立表を見る家族はなかなかないかなと思います。この献立表は家族の話題の主役にもなるのです。だから給食でいうと「主食」だと思えます。「主菜」は給食センターや生産者の方たち、「副菜」はぼくたち家族四人だと思えます。ぼくの家にやってくる給食献立表はこれだけ見られて幸せものなのではないかと思っています。ぼくが給食を食べられるのはあと四年半です。給食センターの方たちに感謝をしながら献立がつなぐ輪を大切に、味わって食べたいと思います。